

最新の業界事情

伝統工芸が見直されるなか、職人への注目度も上昇

「伝統工芸品」と一口にいっても、製品の種類は多岐にわたり、生産の規模や体制も異なる。織物や漆器など複数の工程があるものは分業制が一般的。この場合、どの工程の職人を目指すかによって習得すべき技術も異なる。一方、陶磁器や人形などの分野は作家・職人として独立することも可能。また、製品や産地によって、職人の手作りにこだわっているところがあれば、一部工程の機械化やデザイン工程におけるCGの導入などが進んでいるところもある。

近年、伝統工芸品を見直す動きが進んでおり、高度な技術をもった職人を認定する「伝統工芸士」という資格も浸透。インテリア雑貨やメイク道具として伝統工芸品が人気になるケースも増えているほか、海外でのニーズも高まりつつある。人材ニーズに関しても、職人にスポットが当たる機会が増え、職人にあこがれる若者が増加したことにより、最近では就職希望者が殺到している産地も少なくない。

陶芸、織物、木工、金工…etc. 努力次第で職人を目指せる!

伝統工芸の世界という、自分とは縁遠い世界と思っている高校生が多いかもしれない。しかし、日本全国にある伝統工芸品の産地では、若手の後継者を求めているところも多く、職人を目指す道は十分に開かれているのだ。では、どんな伝統工芸職人がいるのか、どうすればなれるのかを紹介しよう。

取材・文 / 伊藤敬太郎 中島佳子(職種Pick Up) 撮影 / 徳田貴久 イラスト / 藤井昌子
取材協力 / 財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

仕事わかる業界図鑑

vol.16 伝統工芸業界

代表的な伝統工芸職人例

日本全国にどんな伝統工芸品があり、どんな職人がいるのか? 代表的な職種の特徴や代表的産地などを紹介。あわせて、職人を目指すためのステップも解説する。

職人を目指すためのステップ

①まずは作品に触れるなどの下調べ

まずは伝統工芸品への理解を深める。伝統工芸品の展示イベントなどに足を運ぶと、様々な作品を直接見ることができるうえ、職人の実演を見ることもできるので参考になる。



②専門学校や産地の研修所などで基礎技術を習得する

美術系・工芸系の専門学校や大学のほか、産地によっては職人養成のための研修所を設けているケースも。こうした学校・施設で基礎技術を習得すると、その後の就職に有利。



③コネクションを生かして就職先・弟子入り先を探す

伝統工芸品の工房では大々的な人材募集をしているケースは少ない。学校や研修所でできた人脈などを生かして就職先・弟子入り先を探す。職人志望の若者の増加で競争率は高め。



④5年程度で一人前の職人に

伝統工芸の分野や個人によって差はあるが、一人前の職人になるまでに要する期間は5年程度。陶芸、木工、金工など個人で制作ができる分野なら独立することも可能だ。



人形師

博多人形やこけしを作る職人

ひな人形や五月人形をはじめとする日本人形を作る職人。土を焼いて作る博多人形、木を原料とした木目込人形、こけしなど様々な種類がある。宮城伝統こけし(宮城)、江戸木目込人形(埼玉/東京)、京人形(京都)、博多人形(福岡)などが有名。



筆職人、硯職人等

熊野筆のメイクブラシが人気

伝統工芸品の中には硯(すずり)や筆、墨、そろばんなどの文具も多い。赤間硯(山口)、雲州そろばん(島根)などが有名。最近では、熊野筆(広島)がメイクブラシとして人気を集めているなど、意外なところでニーズが高まっているものも。



織物職人

複数の工程それぞれに職人がいる

織物は産地ごとに分業体制が定まっていることが多い。糸づくり、デザイン、織り、仕上げなど複数の工程があり、それぞれに職人がいる。デザインには、CGが導入されている産地も。西陣織(京都)、小千谷縮(新潟)、大島紬(鹿児島)などが有名。



漆器職人

複数の職人による分業制が主流

漆器作りには、木をお椀などの形に加工する「木地作り」、漆を塗る準備である「下地作り」、漆を塗る「塗り」、蒔絵や沈金などを施す「加飾」といった工程があり、それぞれに職人がいる。輪島塗(石川)、会津塗(福島)、鎌倉彫(神奈川県)などが有名。



金工職人

鉄器や銀器、包丁などを作る職人

鉄や銀、銅などの金属を加工して、食器や包丁、装飾品、美術品などを作る職人。南部鉄器(岩手)、信州打刃物(長野)などが有名。例えば、包丁の場合は、金属を高温で熱してハンマーで叩いて成形する。こうした職人を鍛冶職人もという。



陶芸家・陶芸職人

作家を目指すか職人を目指すか

粘土などの原料をろくろや手で成型後、窯で焼き、絵付けをして花瓶や皿などを作る。自由な発想で作品を作る作家(陶芸家)として独立する道もある。有田焼(佐賀)、九谷焼(石川)などは磁器、益子焼(栃木)、唐津焼(佐賀)などは陶器。



木工職人

箆筒などの家具から美術品まで

伝統的な木工品には家具、桶、彫刻、寄木細工などがある。箆筒などは製材、塗装、装飾といった工程にそれぞれ職人がいることが多いが、彫刻や細工物は独立も可能。岩谷堂箆筒(岩手)、秋田杉桶(秋田)、箱根寄木細工(神奈川県)などが有名。



竹細工職人

バッグや生活雑貨を作る職人も

竹細工とは、竹を加工したり編んだりして作る工芸品。籠やざる、籬、竹竿、茶道具などが代表的だが、最近ではバッグやラックなどの生活雑貨も多く作られている。駿河竹筋細工(静岡)、江戸和竿(東京)、別府竹細工(大分)などが有名。



仏壇職人

木工、金工、塗装などの技術が凝縮

仏壇作りには、木工技術のほか、金具作り、蒔絵、彫刻、塗装など様々な職人技術が凝縮されている。それぞれに職人がいるが、一つの仏壇メーカーで大部分の工程を行うケースも。山形仏壇(山形)、名古屋仏壇(愛知)などがある。



石工職人

燈籠や庭石、石仏などを作る職人

天然の石を加工して、燈籠、庭石、石仏や石鳥居などを作る職人。伝統工芸品としては、真壁石燈籠(茨城)、京石工芸品(京都)、出雲石燈ろう(島根)などが有名。また、めのう細工などの宝石を使った工芸品、装飾品を作る職人も。



染色職人

着物を美しく染め上げる職人

絵画的な技法を使って、染料や顔料で着物地などを美しい絵柄に染める職人。友禅染、小紋染などの種類があり、産地によってさらに個性が分かれる。東京染小紋(東京)、加賀友禅(石川)、京友禅(京都)、琉球びんがた(沖縄)などが有名。



和紙職人

壁紙や照明の傘などのニーズも

和紙は、原材料のコウゾなどを処理し、繊維状に分解後、紙漉き、圧搾、乾燥という工程を経て作られる。最近では、障子紙や封筒などのほか、和風インテリア向けの壁紙や照明の傘などのニーズも。土佐和紙(高知)、美濃和紙(岐阜)などが有名。